

社会科学学習指導案

日 時 令和元年11月8日(金) 第6校時
場 所 3年A組 教室
学習者 3年A組
(男子11名、女子9名、計20名)
指導者 時田 奈穂

I 生徒の実態(岩手県学調の結果より)

単一学級で、小学校から相互の関係性が固定化し、競争心が低い。通常学級においても、特別な支援を必要とする生徒の割合16.7%

(文部科学省の調査では、全国で、通常学級における特別な支援を必要とする生徒の割合は6.8%)と高い。

観点別集計	学年	県	県比
地理的分野	51.1	58.2	87.7
歴史的分野	52.3	55.0	95.1
思考・判断・表現	38.3	46.0	83.4
資料活用の技能	61.0	64.1	95.2
知識・理解	54.5	58.6	93.0

社会科学の授業においては、ペアやグループ等の形態に関わらず、率直な意見を述べることのできる生徒が多い学級である。また、日頃からニュースや新聞に触れ、社会の動きに関心を持っている生徒も多い。一方で、社会科に苦手意識を持っている生徒や、板書を写す等の作業に時間がかかるなど支援が必要な生徒も見られるため、図・写真の活用や、言葉の意味を噛み砕いて説明する等の工夫を取り入れた授業を心掛けている。

昨年度10月の岩手県学調の結果より、『社会科の勉強が好き』『授業がよくわかるか』という設問に積極的回答をした生徒がどちらも75%と、学習に対する意欲が高い。しかし学習の定着については課題があり、特に「社会的な思考・判断・表現」についての低さが顕著である。これは自分の考えを述べる際に、根拠を明確にすることや、設問の意図を捉えたり他者と自分の考えを関連付けてまとめたりすることが不十分であることが原因の一つと考えられる。そのため、教師による働きかけや発問の吟味をし、「効率・公正」の視点を持ちながら、自分の考えを適切に表現できる生徒の育成を目指した授業づくりが求められる。

II 単元の構想

1 単元名 『3節 地方自治と私たち』

2 単元の目標

(1) 単元目標

住民自治を基本とする地方自治の考え方や仕組み、地方財政の仕組みについて理解するとともに、宮古市の政治に対する関心を高め、住民の一人として政治参加の在り方について考えを深める。

(2) 具体的目標

ア【関心・意欲・態度】

自分たちが住む宮古市の政治に関心を持ち、自分たちにできることを意欲的に考え、提案したり、政治参加の方法について考えたりすることができる。

イ【思考・判断・表現】

宮古市の特色や課題について調べ、解決のための方法について話し合い、自分の考えをレポートや発言などの形で表現することができる。

ウ【技能】

地域の課題や地方財政の変化について、資料を収集・選択し、複数の資料を比較して読み取ったり、分析したりして、考えたことをわかりやすく表現することができる。

エ【知識・理解】

地方自治の考え方と仕組み、地方財政の仕組みや課題について、宮古市での取り組みも含め理解し、その知識を身に付けることができる。

3 単元観

本単元は、中学校学習指導要領第2章第2節社会の公民的分野の内容項目「C 私たちと政治」の中項目「(2) 民主政治と政治参加」の内容「ア(エ) 地方自治の基本的な考え方について理解すること。その際、地方公共団体の政治の仕組み、住民の権利や義務について理解すること。」をねらいとしている。

これらのことを理解できるようにするため、「身近な地方公共団体の政治について取り上げるとともに、住民の権利や義務に関連付けて扱うことにより、地域社会への関心を高め、地方自治の発展に寄与しようとする住民としての自治意識の基礎を育成することが大切」であると示されている。本時では、宮古市の良さや課題を捉えた上で、宮古市の今後について考え、主権者として主体的に政治に参加することについての自覚を養うことを期待し、授業を展開する。

4 指導観

- (1) 身近な地域のまちづくりを題材とした本単元を学習することを通して、身近な地域の良さや課題に気づき、さらに発展するために自分にできることは何かを考えることができるようにする。
- (2) 地方自治に関する基本的な知識や技能を習得させた上で、身近な宮古市について考えるという学習活動を通して、課題解決をするための現実的な方法を、より具体的に考察できるようにする。
- (3) グラフや写真・映像資料を活用したり、宮古市についてのアンケート・市の施設や地域の方々への聞き取り等を通して、宮古市について具体的に考えるとともに、主体的に学習に取り組めるようにする。

5 研究主題との関連

社会科における発問の工夫は、社会的事象を自分自身や自分の地域と比較することにより、学習課題を自分事として捉え、課題解決にさらに意欲的に取り組めるようにするために行う。そこで、生徒が社会的事象を身近なものとして捉えられるような発問や、状況を把握させたり既習との関連を気付かせたりする発問を取り入れることで、生徒が主体的に学習活動に取り組めるものと考えた。

本時では、単元を通して「宮古市ではどうか」という視点の発問を取り入れるとともに、宮古市の人口問題を改善するための政策について、宮古市の資料を活用しながら考えさせることで、生徒が地域の課題や改善点を理解し、深い学びにつなげられるようにした。

6 指導及び評価、まなびの計画

時	主な学習内容	学習課題 (■) と 主な学習活動 (○)	評価規準 (評価方法)
1	私たちの生活と 地方自治	■地域の政治はどのようにして行われているのか。 ○地方公共団体の種類や役割、意義について、国と比較しながら理解する。	地方公共団体の仕事や地方分権の考え方について理解している。(小テスト)
		主体的まなび 対話的まなび 深いまなび	【知識・理解】
2	地方自治の仕組み	■地方自治はどのような仕組みで行われているのか。 ○地方議会の制定する条例や直接請求権について、国民主権や地方自治の観点を踏まえて考える。	地方公共団体の住民に直接請求権が認められている理由について、国民主権や住民自治の観点から、多面的・多角的に考えている。(ワークシート・発表)
		主体的まなび 対話的まなび 深いまなび	【思考・判断・表現】
3	地方財政の仕組みと課題	■地方公共団体のお金の使いみちはどのようなものか。 ○地方公共団体の財源とその使いみちについて、統計資料を基に理解する。 ○地方公共団体が抱える財政上の課題について捉え、その解決方法を話し合い、発表する。	地方財政の歳入と歳出、地方財政の課題について、統計資料を基に的確に読み取っている。(ワークシート・発表)
		主体的まなび 対話的まなび 深いまなび	【技能】
4	住民参加の拡大と私たち	■身近な地域のために、私たちにできることは何だろうか。 ○魅力的な宮古市にするために必要な歳入をどのように増やし、自分がどのように地域の政治に関わっていくか考え、主権者としての意識を持つ。	自分と地域の政治との関わりについて、多面的・多角的に考察している。(発表・観察)
		主体的まなび 対話的まなび 深いまなび	【思考・判断・表現】
5 (本時)	未来の宮古市について考えよう	■宮古市が生き残るために、どうしたら良いのだろうか。 ○宮古市の人口構成をバランスの良いものにするための方法を話し合い、具体的な取り組みについて考えることを通して政治への関心を深めるとともに、第3章の学習を振り返る。	市の課題の解決や将来の展望について、資料や第3章の学習内容、効率と公正の観点などを踏まえて多面的・多角的に考察し、根拠の伴う主張をしている。(ワークシート・発表)
		主体的まなび 対話的まなび 深いまなび	【思考・判断・表現】

Ⅲ 本時の学習

1 本時の目標

- ・より良い宮古市にするための方法を考案する活動を通して、政治への関心を深めることができる。
- ・第3章を振り返り、主権者として政治に積極的に参加し、民主的な社会を創り上げようとする態度を身に付けることができる。

2 本時の展開

	活動内容	□指導の内容 ●主な発問 ■生徒の活動 ◆予想される生徒の反応	留意点 (発問のねらい等)
導入 (7分)	<ふりかえる>	□宮古市の人口推移グラフを提示し、人口減少が予想されることをふまえ、本時の活動を見通せるようにする。 ●なぜ宮古市の人口は減少すると予想されるのか。(その要因は何か) ◆少子高齢化。都市部への人口流出。 ●人口が減少すると、どんな点で困るのか。 ◆税収が減る。ますます何もなくなる。学校の統廃合。 ■宮古市の人口減少が、住民にとって大きな問題になることを捉える。	
	<見通す>	●どうすれば、宮古の人口減少が止まり、バランスの良い人口構成になるだろうか。 ■宮古市の若者の人口減少(流出)を止めるために、住みたい・魅力的だと思える宮古市づくりを行う必要があることに気付く。そして、その解決策を想起する。	生産年齢人口の減少が進行することによる不都合な点にも気付かせるようにする。
	<つかむ>	本時の課題 宮古市が生き残るためにはどうしたら良いのだろうか。 □学習課題についての予想をさせる。 ※視点…「産業」「仕事」「暮らし」 ■学習課題を確認し、ワークシートに予想を記入する。 ◆市内の商業施設を増やす。大企業の誘致。魅力ある街だとPRする。子育て支援を充実させる。交通網の整備。防災に力を入れる。	グループで選んだ視点をもとに予想する。
展開 (30分)	<さぐる>	□課題の解決策について、案を出し合わせる。 ■予想した内容を、グループ内で発表する。	
	<かかわる>	□発表された案をもとに、課題解決のためにできることは何か、グループで考えさせる。 ●宮古市が生き残るためにどんな政策を行えばよいか。根拠を明らかにし、市民に提案できるような政策を考えよう。 ■グループで話し合い、政策を決定する。	効率・公正の視点

	<広げる>	<input type="checkbox"/> 話し合った内容を発表し、互いの考えを理解させる。 ● 他のグループに対して、質問やより良い政策案はないだろうか。意見交流をしよう。	
まとめ (13分)	<まとめる>	<input type="checkbox"/> 意見交流をふまえ、より良い政策を考えさせる。 ● 仲間の意見をふまえ、より良い政策をつくり上げよう。 ■ グループで考えた政策を学級で共有する。	市の財政状況も考慮しながら、現実的な政策を考えられるよう、机間支援を行う。
		<input type="checkbox"/> ふりかえりをさせる。 ● 今日の授業をふりかえり、考えたことや感想を記入しよう。 ■ ワークシートへ記入する。	既存の財産を再確認・活用することや、他地区との関連についても補足する。

本時のまとめ（「仕事」の視点での例）
宮古市を存続させるためには、バランスの良い人口構成を目指すことが重要だ。生産年齢人口の流出を防ぐために、市としては大企業を誘致したり、宮古でしかできない仕事を生み出すための補助金を出すなどの工夫が必要だ。

3 評価項目

市の課題の解決や将来の展望について、資料や第3章の学習内容、効率と公正の観点などを踏まえて多面的・多角的に考察し、根拠の伴う主張をしている。

4 板書計画

